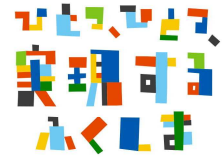


主要な農作物の生育情報

令和5年度 第5号

(令和5年8月9日)

福島県農林水産部農業振興課



【作物】

1 水稲（農業総合センターの作柄解析試験における生育概況）

農業総合センターの生育調査におけるひとめぼれの出穂期は、本部（郡山市）が7月31日で平年より3日早く、会津地域研究所（会津坂下町）が7月29日で平年並、浜地域研究所（相馬市）が7月29日で平年より2日早くなっています。

表1 農業総合センターにおける水稲の生育ステージ（令和5年8月1日現在）

調査場所	品 種	移植期 月.日	幼穂形成始期 月.日	出穂期 月.日	成熟期 月.日
本 部	ひとめぼれ	5.15	7.11 (-3)	7.31 (-3)	[9.13]
	天のつぶ	5.15	7.12 (-2)	[8. 5]	[9.14]
	コシヒカリ	5.15	7.17 (-4)	[8.11]	[9.25]
会津地域研究所	ひとめぼれ	5.18	7. 8 (0)	7.29 (0)	[9.11]
	天のつぶ	5.18	7.10 (0)	7.31 (0)	[9.12]
	コシヒカリ	5.18	7.13 (-1)	[8. 4]	[9.17]
浜地域研究所	ひとめぼれ	5.10	7. 5 (-1)	7.29 (-2)	[9.12]
	天のつぶ	5.10	7. 5 (-2)	7.30 (-3)	[9.21]
	コシヒカリ	5.10	7.12 (-3)	[8. 9]	[9.26]

注1) 調査場所は、本部が郡山市、会津地域研究所が会津坂下町、浜地域研究所が相馬市。

注2) ()内の数字は、前5カ年平均値との差を示す。

注3) []内は、前5カ年平均値を示す。

2 大豆（農業総合センターの作柄解析試験における生育概況）

農業総合センターの生育調査における大豆の開花期は、本部（郡山市）のタチナガハが7月22日で平年より5日早く、会津地域研究所のあやこがねが7月23日で平年より1日早く、浜地域研究所のタチナガハが7月26日で平年より7日早くなっています。

表2 農業総合センターにおける大豆の生育ステージ（令和5年8月3日現在）

調査場所	品 種	播種期 月.日	出芽期 月.日	5葉期 月.日	開花期 月.日	成熟期 月.日
本 部	タチナガハ	6. 1 (+1)	6. 8 (-5)	7. 2 (-4)	7.22 (-5)	[10.27]
	あやこがね	6. 1 (+1)	6. 8 (-4)	6.29 (-6)	7.22 (-4)	[10.20]
	里のほほえみ	6. 1 (+1)	6. 8 (-4)	7. 2 (-4)	7.22 (-5)	[10.28]
会津地域研究所	あやこがね	6. 1 (0)	6. 9 (-2)	7. 6 (+1)	7.23 (-1)	[10.14]
	里のほほえみ	6. 1	6. 9	7. 6	7.23	
浜地域研究所	タチナガハ	6. 6 (-5)	6.13 (-6)	7. 7 (-7)	7.26 (-7)	[10.23]
	里のほほえみ	6. 6 (-5)	6.13 (-4)	7. 7 (-6)	7.25 (-8)	[10.23]

注) 調査場所、()及び[]内の数字の内容は表1に同じ。

【野菜】

1 きゅうり

県北地方の4月下旬定植の雨よけ栽培では、収穫が増加した後、草勢が低下し、短節間や弱い側枝の発生が多くなっています。県北、県中地方の5月下旬定植の露地栽培は、側枝の収穫中ですが、高温・乾燥により、草勢が低下し、短節間の側枝が多くなっています。また、曲がり果や尻細果の発生が多くなっています。

病害虫は、施設・露地栽培ともに、ウイルス病やべと病の発生の発生が多くなっています。また、施設栽培ではうどんこ病、露地栽培では炭そ病の発生が見られています。害虫は、ウリノメイガやハダニ類、カメムシ類の発生が見られています。

2 トマト

県南地方の4月定植の作型では、現在収穫中で、平年並の9～10段花房開花となっています。また、南会津地方の5月下旬定植の作型では、7月上旬から収穫が始まり、8段花房開花となっています。高温・乾燥の影響により5～7段目で花落ちや尻腐れ果の発生が見られていますが、概ね順調に生育し、果形は概ね良好です。

病害虫は、すすかび病やコナジラミ類、オオタバコガの発生が散見されています。

3 ピーマン

県中地方の4月定植のトンネル栽培、5月定植の露地栽培は、平年より生育がやや早く、高温・乾燥により草勢低下や尻腐れ果の発生が見られています。

病害虫は、CMVや斑点病、オオタバコガの発生が散見されています。

4 さやいんげん

県中地方の5月定植の作型は収穫終盤となり、6月以降播種の作型は高温・乾燥により花落ちが多くなっています。

病害虫は、ハダニ類の発生が平年よりやや多く、メイガ類、角斑病等の発生が散見されています。

【果 樹】（農業総合センター果樹研究所における8月1日現在の生育概況）

1 も も

「あかつき」の収穫盛期は7月25日で平年より10日早く、昨年より5日早くなりました。果実の大きさは328gで平年より大きく、糖度は12.8° Brixで平年並となっています。

「ゆうぞら」の果実肥大は、暦日比較では縦径が64.5mm（平年比103%）、側径が64.8mm（平年比114%）と平年より大きい状況です。満開後日数の体積指数で比較すると、平年より小さい状況です。

2 な し

果実肥大の暦日比較では、「幸水」は縦径が67.8mm（平年比120%）、横径が83.0mm（平年比120%）、「豊水」は縦径67.9mm（平年比120%）、横径が76.3mm（平年比121%）と両品種とも平年より大きい状況です。満開後日数の体積指数で比較すると、両品種ともに平年並となっています。

平均気温と降水量を基にしたDVRモデルによる「幸水」の収穫予測では、収穫盛期は8月16日頃で平年より13日早い見込みです。

3 りんご

果実肥大の暦日比較では、「つがる」は縦径が77.5mm（平年比114%）、横径が84.3mm（平年比109%）、「ふじ」は縦径が69.9mm（平年比115%）、横径が75.5mm（平年比113%）と両品種とも平年より大きい状況です。満開後日数の体積指数で比較すると、両品種ともに平年並となっています。

【花 き】

1 キク類

8月咲きは、草丈は平年並からやや短くなっています。開花期は概ね平年並であり、現在出荷が始まっています。生育が前進傾向であった一方で、高温により開花が遅延したことによると考えられます。9月咲きは、順調に生育しており、一部で発蕾が始まっています。

病害は、白さび病の発生が散見されており、害虫は、ハダニ類やカメムシ類、タバコガ類、アザミウマ類、アブラムシ類の発生が散見されています。

2 リンドウ

8月盆向けの早生品種では、草丈は平年並から3割ほど高くなっています。開花期は平年並からやや早く、8月中旬まで収穫が続く見込みです。品種によっては、収穫始めは早かった一方で、高温による開花抑制から、収穫盛期が平年並程度となるものも見られます。9月彼岸向けの中生品種は、順調に生育しています。

病害は、葉枯病、褐斑病、黒斑病の発生が散見されており、害虫は、ハダニ類、タバコガ類の発生が目立っています。

【飼料作物】

- 1 牧草
牧草は、平坦部、山間部共に2番草の生育が順調に進み、収穫作業が行われています。
- 2 飼料用トウモロコシ
飼料用トウモロコシは、順調に生育しています。

◎ 病害虫の発生状況や防除情報については、病害虫発生予察情報（ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>）等を活用し、適切に対応しましょう。

☆ **農作業事故を防止しましょう！**
暑い日が続きますので、体調管理に十分留意し熱中症対策をしっかりと行い、農業機械の操作にも注意しましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL(024)521-7344
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html>